

須崎市中学生海外フィールドワーク事業in オーストラリア

7月30日～8月9日まで、市内中学生10名・引率者4名で海外フィールドワークとしてオーストラリアへ行ってきました。森田は引率者として参加させていただきましたので、現地での活動内容や生徒たちの様子をご紹介しますと思います。

●7月30日（水）出国

出発日当日に日本で津波警報・注意報が発出され、予定されていた出発式を取りやめ、予定より早く須崎市を出発しました。生徒たちは、わくわくした表情、少し不安な表情とさまざまな様子でしたが、たくさんの方々がお見送りをしてくださり、「ってきます！」とバスの中から笑顔で手を振っていました。高知龍馬空港→羽田空港に無事到着し、22時に羽田空港→シドニー国際空港へ出発しました。フライト時間は約9時間半でした。機内では映画を楽しんだり、隣同士で会話をしたり、と各々の過ごし方をしていました。機内食を選ぶ際は、CAさんに英語で注文をしている姿も見られました。深夜便でしたが、慣れない環境でほとんどの生徒が熟睡できなかったようでした。



●7月31日（木）入国、ファームステイをするボウラルに移動

朝8時半ごろにシドニー空港に到着しました。長時間のフライトで疲労が見られましたが、海外に来た！という実感が湧いているようでした。日本とは気候が真逆なので、冬服に着替え、ファームステイでお世話になるボウラル（シドニーからバスで1時間半）へ移動しました。シドニーから少し離れると自然豊かな景色が広がり、バスの中からは野生の牛・ヤギ・カンガルーなどを見ることができました。（フライトの疲れで爆睡している生徒もいました。）

ボウラルで、男子チームはオーディンさん一家、女子チームはノーラさん一家と合流しそれぞれのお宅まで車で連れて行ってもらいました。ボウラルはシドニーと比べると気温が低く、天候が悪いのも相まって寒さが厳しかったです。

●8月1日（金）～8月3日（日）ファームアクティビティ、シドニー観光

ファームステイ先には馬、クジャク、犬、ニワトリ、牛などたくさんの動物たちがいました。

【男子チーム】朝一の産みたてのたまごを収穫し、その卵を朝ごはんで食べたそうです。広大な農園にいるヤギを追いかけたり、家の中にあるビリヤード台で遊んだり、オーディンさんの趣味の筋トレ部屋で遊んだりしていました。夜にはオーギービーフのBBQをしたようでした。引率者が見学に行かせていただいた際には、オーディンさんのペットのトカゲと、ダイヤモンド・パイソン（ヘビ）を触らせていただきました。



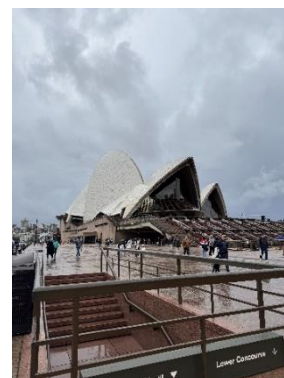
【女子チーム】天候がずっと悪かったため、あまり外でのファームアクティビティができなかったようで、奇跡的に晴れ間が見えたときは外にある巨大なトランポリンで遊ばせてもらったり、ペットの犬と戯れたり、家の中でクッキー作りをしたり



していました。ノーラさん宅には暖炉があり、家の中はとても暖かかったです。また、家の外には大きなピザ窯があり、生徒たちはそのピザ窯で焼いたピザをごちそうになったようでした。

ファーム体験期間中は、残念ながら天候に恵まれず、外での活動があまりできませんでしたが、ホストファミリーの方々はその中でもできるだけたくさん生徒たちにファーム体験をさせてくださりました。ファームステイ中はいろいろな刺激があり、生徒たちは自然の中でゆったりとした時間を過ごさせてもらいました。（何人かの生徒はスマホを触る時間がほぼ無かったようでした。）貴重な経験となりました。

2日にはホストファミリーの方々とお別れし、シドニーへ移動しました。シドニーでは世界遺産のオペラハウス、その周辺の散策、セントメアリー大聖堂、免税店を訪れました。オペラハウスはもちろん素晴らしかったですが、個人的にはオペラハウスとシドニーブリッジの両方が見える場所の眺めが素晴らしく印象に残っています。現地ガイドのレイコさんが、観光で訪れる場所について有益な情報を伝えてくださったことで、実際にその場所を訪れた時の感動がさらに増しました。



3日は世界遺産のブルーマウンテンズに行きました。オーストラリアに入国してからずっと天気が悪く、この日もあいにくのお天気でした。天気が良ければ、自然豊かで雄大な景色が見られるそうですが、山の方はさらに天気が悪く霧に覆われていました。そんな状況でも有名なスリーシスターズを見ることができたのは幸運でした。



● 8月4日（月）～8月8日（金）現地校体験・ホームステイ

後半の5日間は現地の学校で授業に参加し、夜は4家庭に分かれてホームステイをしました。今回は、シドニーから1時間半ほどの場所にある「ゴスフォード・ハイスクール」でお世話になりました。中高一貫校で、全校生徒が1000人以上いる大きな学校でした。ESLの授業では、自己紹介をしたり、オーストラリアの都市（ケアンズ・ボウラル・メルボルンなど）のご当地キティちゃんをグループに分かれて考えたりしました。また、オーストリアで有名なお菓子やスナックを食べさせてもらうこともできました。（ベジマイトは不評でした）ゴスフォードの日本語の授業を受講している生徒との授業もあり、英語や日本語でコミュニケーションを取る機会もありました。また、それぞれの生徒に現地校の中学2年生が1名ずつバディとして付き、優しく親切に学校生活をサポートしてくれました。ホームステイ先のホストファミリーの方々もとても優しく、授業が終わったあとにコアラを見に連れて行ってくれたり、近くにビーチに連れて行ってくれたりしたそうです。毎日昼食を準備していただいたのもありがたかったです。



最終日には、学校側がお別れパーティを開いていただき、生徒たちは英語で5日間の現地校体験の感想や感謝の気持ちを述べていました。現地校初日は、何か分からないことがあったら、すぐに引率者に助けを求めている生徒たちが、日が経つにつれてバディの生徒に自分から尋ねたり、英語の指示もしっかり聞き取れるようになったりと短期間でも大きな成長が見られました。全員の前で最後のスピーチをした際には、全員が堂々とした態度で発表ができていて素晴らしかったです。長いようであつという間だった海外フィールドワーク。中学生の皆さんにとってはきっと一生の思い出と経験になったと思います。「百聞は一見に如かず」、まさにそれを実感した11日間でした。

ELSA活用例紹介(中学生海外フィールドワーク事業に向けて)

上記の海外フィールドワークに向けて、私(森田)と、ALTのテツヤ先生・トーヤ先生で事前学習を行いました。内容としては、

①現地の方への自己紹介文を考える ②海外の様々な場面でよく使う英語表現の実践練習を行いました。②については、「機内」、「ホームステイ先」、「現地校」、「ホテル」、「買い物」のそれぞれの場面でよく使う表現をALTの先生のチェックを受けながら実践練習を行いました。事前学習だけでは忘れてしまう生徒もいると思ったので、以下のようにELSAに「海外フィールドワーク生徒専用」という学習セットを作成し、家庭でも復習ができるようにしました。

